

# ミックスジュース

学級通信  
鯉沢中  
3年生  
2018年6月22日  
No. 13  
来週、ついに地区陸上



## 道徳「ドナーカード」



### 読み物について

臓器移植について、素直な感想が書かれた新聞投書を資料にしたものです。

主婦の高井さんは、娘が脳死になってもドナーにすることはできないけど、移植を待ちながら亡くなった幼い子の死に涙します。医師の新見さんは、仕事として臓器移植に接する中で、自分はドナーになることを望んでいますが、妻にはなってほしくないと思っています。

この授業では、臓器移植が良いか、悪いかを考えたわけではありません。高井さんと新見さんの矛盾する思い（授業の中で、みなさんの心の中にも、相反する思いが生まれていました・・・）の中から、生命のかけがえのなさ、尊さを感じてほしいと思います。



さまざまな考え方がありますが、  
生命を尊重する思いはみんな同じです



### 今日の授業で学んだこと、考えたこと（「命を思う」という観点で・・・）

- 命が一番大切なものだと思う。今日出てきた脳死は完全な死ではない。しかし、何もできない状態に近い。その中で臓器を提供するのは、家族は悲しいかもしれない。でも、脳死になった人が（臓器を提供しても）良いと思っているならば、家族は最後の願いを受け入れてほしいと思った。誰かの体の中で生き続けるのだから・・・。
- 命を思うという観点でみれば、臓器を提供する意志を尊重する人も、しない人も根幹にある思いは変わらない。誰かを助けるために臓器を提供したいけれど、やはり大切な人を傷つけない。そんな矛盾した思いを（私も）持ってしまうだろうと思った。
- 自分は正直言って臓器を提供したくありません。しかし、家族がやると言ったら尊重するという少しずるい考えをもちました。命というのは、軽いものではなく重いものなので迷います。それでも自分は、この体で生まれてきたのだから、このまま死にたいと思いました。
- 自分はたくさんの方が助かるなら自分の臓器を提供しても良いと思う。でも、一番大事にしている（したい）人だったら、その人がどんな風に思っても、自分は提供させたくない。自分の命や他の人の命のことを考えるのはとても難しかった。